

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立不動岡高等学校)

目指す学校像	明日の世界を創造する品格あるリーダーの育成 科学教育と国際理解教育の拠点校として地域文化への貢献
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育活動及び学習活動の工夫・改善を図り、「これからの時代に求められる力」を養成する。 2 学力を向上させるとともに高い志を育み、第一志望校への進学を実現する。 3 「質実剛健」「明朗質素」「文武両道」を日々実践する生徒を育成する。 4 さまざまな機会を通じて「不動岡高校ファン」を増やす。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	13名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標				年度評価(2月1日現在)		実施日 平成31年2月12日	
部	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ○本校生徒の実態と高大接続システム改革や次期学習指導要領をふまえ、進路希望の実現につながる指導法等の研究及び実践に一層取り組む必要がある。 ○SSH/SGHの成果を生かした教育活動の充実と通常の教育活動として定着させることが求められる。	1 高大接続システム改革等に対応する指導法・学習法と評価法の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的な学び」を促す指導改善の推進 ・「学力の3要素」をふまえた指導及び評価の工夫と観点別評価の研究 ・50分3学期授業等の効果的な実施 ・自主的・計画的な学習を促す指導の充実 ・次期学習指導要領や大学入学共通テスト、英語4技能検定に関する情報収集と生徒への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的な学び」を促す授業の実施率 ・学習に対する積極性・自主性等の向上の割合 ・授業進度や指導及び評価の工夫の状況と生徒の授業理解度 ・定期考査等の作問及び評価の工夫の状況 ・SSH/SGH事業の実践例をふまえた観点別評価の研究状況 ・家庭学習時間及び早朝学習生徒数、取組状況 ・職員への情報提供及び生徒への周知の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートにおいて「主体性・協働性」の評価が上昇。(4段階評価で3.09 H29 2.98)。保護者アンケートでも「工夫された授業」が2年連続で上昇。(H29比3.9%増 H28比9.8%増) 生徒学習状況調査において、学習姿勢が向上し授業理解度70%以上の生徒も62.5%と上昇した。(H29 57.6%) ・カリキュラムポリシー検討委員会を中心に、これからの時代に求められる力を養成する本校のカリキュラムポリシーを年度内に策定予定。 ・各教科において新入試を意識した作問の工夫等を行い、全職員で共有した。 ・社会で賢く生き抜くことができる資質・能力を測定する業者テストを実施。 ・英語4技能を伸ばすための本校独自の取組(不動岡ブリッジ)が定着し、模試・センター試験結果、英語検定結果も向上している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を踏まえ、本校のカリキュラムポリシーに沿って「これからの時代に求められる力」を養成する新教育課程を作成する。 ・カリキュラムポリシーを年度内に策定予定。 ・「総合的な探究の時間」を見据えたFプランの評価方法を進める。 ・自主的・計画的な学習や学習意欲向上のため、学習に対する内発的な目的意識を一層育成する。
		2 SSH/SGHの課題研究、外国語科等の教育活動等の発展と他の教育活動での実践	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH/SGH課題研究、外国語科等の教育活動の指導法・成果等の授業等における活用 ・SGH終了後の発展的な教育活動の具体的な内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究等の実施状況、工夫・改善の状況 ・SSH/SGHから学校全体への取組に移行した教育活動の実施状況 ・諸事業に参加した生徒の意欲や資質の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究において、経験学習サイクルモデルを踏まえた実践を行い、生徒の関心を促して研究を深化させる工夫を行っている。 ・248名の海外研修希望者状況を踏まえ、夏季休業中に実施したエンパワーメントプログラムに67名参加、CIEEによる個人留学説明会に103名参加 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SGH指定終了後をにらみ一層効果的な国際理解教育の推進について検討する。
		3 課題研究や意識啓発事業を活用した「学びに向かう力」、リーダーとしての資質の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点をもった新Fプランや学校行事の計画と実施 ・「総合的な探究の時間」につながる「研究力」「実行力」「発表力」の育成 ・ことばの力、メディアリテラシー等の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・新Fプラン等の実施状況と生徒の取組状況 ・リーダーとしての資質向上事業への参加状況 ・図書貸出数、図書館活用の授業の実施状況 ・アウトプットを重視した授業の実施状況や課題研究等の成果発表の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・各年次において、「総合的な探究の時間」とSGH終了後を視野に入れた課題研究、発表に取り組み、代表がSGH・SSH生徒研究発表会で発表した。 ・情報入手がインターネット中心になり図書貸出数、図書館活用授業が減少。 ・アウトプットを効果的に活用した授業を実施することで、生徒授業評価アンケートにおいて「積極性」など生徒自身の評価が向上した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習等を所掌する新分掌を中心に「学びに向かう力」、リーダーとしての資質の育成につながる授業や事業について整理する。
2	【現状】 ○現役進志志向も強いが、地方国立大学も視野に入れ国立大学志望、第一志望大学への進学希望を貫こうとする生徒が増えてきた。 ○SSH/SGH等の探究活動の成果を活かし進路希望を実現する生徒も現れた。 ○本番で実力を発揮できない生徒やセンター試験が目標になっている生徒もいる。	1 早期に高い目標を設定させ、実現させるための計画的な進路指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・Fプラン等を活用した初期指導の徹底 ・授業を柱とした学習習慣の確立 ・系統的な進路行事の開催とデータや面談ノートを活用した面談の実施 ・社会で活躍する卒業生による意識啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望における目的意識の高さ ・進路希望実現を意識した授業への集中度、予習・授業・復習のサイクルの状況 ・面談等における生徒の進路意識の変容と支援 ・卒業生を活用した指導の状況と生徒の意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・Fプランで進路学習(1年10回、2年4回)進路講話(2年2回、3年7回)実施。 ・センター試験5教科総合型受験者数167名であり、得点率が向上した。 ・生徒学習状況調査において、「授業後の集中」「授業後に質問」「興味を持ったことを自分で調べる」「前年より勉強している」が全年次で上昇した。 ・仕事について学ぶ卒業生による進路懇談会を3月に新規実施の予定。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次から塾を頼らない学習が定着する傾向が昨年度以上に顕著になった。 ・引き続き授業を中心とした学習指導、キャリア教育に取り組み、進路希望実現を目指す。
		2 高い目標を実現させるための保護者との協力体制による生徒の学習意欲と粘り強く目標実現に向かう姿勢の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・分掌・教科等の連携による自発的・自律的学習者の育成 ・生徒・保護者に対する情報提供、保護者面談・PTA活動等における進路情報の共有・意識啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な課題等を活用した計画的指導の実施状況 ・「進路だより」等の積極的な活用状況 ・模試等の結果による進学希望の変化 ・保護者の進路意識の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科間で連携し適切な課題量、提出時期の調整を行い学力の向上を図った。 ・「進路だより」45号まで発行。保護者との情報共有のためHPにも掲載した。 ・保護者会を各年次で2回実施し、進路等の情報提供を行った(出席率約80%)。 ・通学時間にかかる生徒が増え、平日の家庭学習時間確保が困難な中、生徒は保護者の協力を得て早期授業を実践し、学習時間確保の工夫をしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教科間で連携し適切な課題量、提出時期の調整を行ったことで、学力の定着に効果があった。効果的な課題等について、教科間で連携して検討し、早朝授業も推奨していく。
		3 生徒の進路希望に応じた指導の充実と学年・教科・分掌の連携による支援体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・難関大学を目指す指導の工夫 ・授業以外の学習の希望者に対する指導 ・進路等に不安を持つ生徒や保護者に対するサポートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試結果や入試問題の分析、指導法の研究状況 ・授業以外の指導の実施状況と生徒の参加状況 ・学年・分掌、外部機関等と連携した相談活動の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・模試分析を実施。(1・2年4回、3年6回)教科指導や面談で活用している。 ・3年夏季補習40講座に延べ1371名参加。後期土曜補習17講座、冬期休業中補習5講座開講、センター演習会を実施。1・2年夏季補習はレベル別も導入した。 ・担任・学年・保健室の連携を密に、相談活動を行うチーム支援体制が整った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム支援体制が整い、直接相談しやすい環境ができている。今後も継続して必要に応じて適切に生徒を支援していく。
3	【現状】 ○部活動・学校行事への参加意欲が高く、本校生としてふさわしい行動をわきまえ、自律の意識が醸成されつつある。 ○公共の場所での自律心をさらに磨くことも必要である。	1 本校生としての誇りを持ち校内外でふさわしい行動をとれる指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・風紀委員会・部活動等を活用した挨拶をはじめとする基本的な生活習慣の確立 ・清掃への取組等による公共意識の啓発 ・学校施設・設備の利用意識の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・不動岡生としての誇り、社会に貢献する意欲の向上 ・あいさつ運動等の取組と日常の状況 ・清掃への取組と日常的な施設の利用状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒学習状況調査において社会に貢献しようとする意識が向上し(78% H29 75.4%)、不動岡生としての誇りも向上した。(78.5% H29 75.9%) ・保護者アンケートにおいて、本校の生徒指導について93.8%が肯定的回答。 ・清掃分担の工夫と美化委員会の活用により、日常的な美化が維持できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外において、一人一人が自発的・自律的に品位ある行動がとれるようさらに社会貢献意識や本校生としての誇りを育てる。
		2 主体的・自律的な部活動・学校行事への取組を通じた集中力の育成と豊かな人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な指導に基づく部活動の充実 ・自分自身の目標達成を目指す部活動への取組 ・生徒会本部や生徒実行委員会を中心とした自主的な学校行事の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への生徒の加入状況、活動状況 ・目標達成に向けた取組、勉強との両立、負担などメリハリのある部活動の計画と実施 ・学校行事への取組状況及び行事による資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は高く、陸上部、新聞部全国大会出場、水泳部関東大会出場をはじめ各々がメリハリのある活動を行い、活力をもらっている。 ・生徒が主体的に取り組む学校行事をとおして、生徒は「思考力」「責任感」「忍耐力」などリーダーとしての資質が向上したと回答。(学習状況調査) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高校における部活動や行事の意義を踏まえ、メリハリある高校生活をとおして計画的に人格の陶冶と豊かな人間関係を育成する。
		3 交通マナーの徹底、インターネット等との自律的な関わり方指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・交通指導の実施、HRにおける継続的な指導 ・SNS等情報マナーに係る意識啓発事業の実施と日常的な注意喚起 ・風紀委員会を活用した自主規制の順守 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通マナーの改善、近隣住民からの評価 ・意識啓発事業の実施状況と生徒の意識の変化、日常の状況 ・日常的な規定の順守状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導を年間6回実施。外部の苦情が減少。加須警察署と連携しての交通安全キャンペーン「無事カエル」の酒粕は30年目を迎え、好評であった。 ・外部講師によるSNS利用に関する講演会は生徒の意識向上に効果的であった。 ・生徒の自律の意識と教員の指導が噛み合い、規則順守状況は良好である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS利用マナーについては、今後も継続的に自主規制と指導に取り組む必要がある。
4	【現状】 ○HPや学校内外の説明会等を通じて積極的な情報提供・意識啓発がされている。 ○PTA活動や地域との交流事業を活用した貢献事業の充実が期待できる。	1 積極的な情報発信による保護者との協力体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌・学年・部活動による積極的な情報発信 ・保護者のネットワークづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや学年通信等による情報発信の状況 ・学年別保護者会、PTA支部・理事会等を活用した保護者の意識啓発の状況 ・PTA支部再編に向けた検討状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の学校ホームページ閲覧状況は上昇している。(保護者アンケート) ・保護者会等を通じて、高大接続システム改革の状況等について情報提供。 ・1月の理事会で承認された支部再編(案)を2月のPTA臨時総会において、提案予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPの古い情報を整理し、閲覧しやすいものにする。 ・支部再編に伴い、円滑な運営に向けた引継ぎを行う。
		2 本校の特長をふまえた魅力発信と関係者の理解促進	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特長への理解を促す学校案内の改訂 ・説明会等の実施内容・方法の見直し ・生徒募集対象地域、対象生徒の重点化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内の中学生等にとってのわかりやすさ ・説明会等の工夫・改善の状況、参加者数 ・本校に対する中学校や塾等の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育システムや特長が中学生にわかりやすく伝わる学校案内を作成。 ・三枝説明会や熊谷会場の校外説明会、部活動体験等を新規企画、実施した。 ・説明会はわかりやすいと好評。志願者倍率 普通科1.44倍、外国語科1.90倍(12月15日現在) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中に策定したアドミッションポリシーの一層の周知を図り、中学生のよりよい進路選択に資する募集活動を行う。
		3 本校の教育活動と人材を生かした地域連携・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における科学・国際理解教育、スポーツなどの拠点校としての事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・不動岡市民大学、小中学校との交流事業、出前授業、サイエンス教室等の実施状況 ・各種事業への小中学生や一般住民等の参加状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大学 大人向け4講座、子供向け4講座、また、部活動単位で小中学生との交流事業をはじめ、福祉施設訪問等も行い地域とのつながりを深めた。 ・サイエンス教室133回実施。うち本校開催のサイエンス教室にはSGH、外国語科の企画も設置し、地域の小中学生に成果を還元した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種地域貢献活動が好評である。日程の調整と周知方法に工夫し、より多くの方が参加できるようにする。
					学校関係者評価 学校関係者からの意見・要望・評価等		